

# 「MASP なんでも高座」

## 【発表内容概要】

2017年2月23日

氏名	大塚 修彬(オオツカ ノブヨシ)	会社名	個人
電話等	0467-76-4328 ,090-2323-9905, pxn07367@nifty.ne.jp		

### 【テーマ】

「概念データモデル設計法の普及に関して、MASP がいま実践すること」  
その内、MASP が概念データモデル設計法に関して考えていると思うことを提案する。  
それに対して普及するためにどういうことがかけているかを議論したい。

### 【ねらい】

- (1) 「概念データモデル設計法の適用するため考慮点」として現在これがわかって貰えば普及するのではと思う視点で提案する。
- (2) それに対して三者の方から、こういう視点が抜けているという提案をしていただき、議論して普及するための方策になるようにしたい。

### 【内容】

#### (1) ▼原点： ナストリア時代の上役から企業の全体像をとらえる勉強をすることという宿題

▼中小企業だった(従業員 500 名強)のでシステム要員は 7 名くらいが限度だった。それでもシステムを維持するためにはと考えると、当初は DOA を勉強、その後 2000 年から MASP の活動に参加して概念データモデル設計法を学び、これで宿題が解決したと喜んだ。しかし、実践したわけではないのでなかなか理解できなかつたと感じている。現在は、概念データモデル設計法(CDM)の全体像を自分なりに把握できたと思っている。

#### (2) CDM 適用の考慮点としては以下の 3 点が主なものである。

- ①モデル作成時には業務部門が主体で、AS-IS モデルではなく実世界をありのままにモデル化し成果物は業務改革の作成及び業務改革をシステム構造改革案の作成をすることにある。
- ②要求分析・要求定義は、ビジネス・プロセスではなくビジネス・アーキテクチャに基いて行うことにある。
- ③実装時における考慮点としてビジネス改革とシステム構築を同期させるためにホワイトボックス開発で行うことが重要で、そのためには移行計画やテスト計画を開発に着手する最初に行うことが肝心である。

#### (3) 考え(迷い?) 続けて 25 年、結論は「進化型情報システム構築—概念データモデル設計法」

- ① CDM は企業の基盤となる情報システムを構築する方法論である。
- ② 企業の情報システムは基盤情報システムだけではない。賢く経営するための情報系のシステム含めて構成され、その間をつなぐシステムも重要である。
- ③ 企業は “永遠の存続を目指すべき” という考えを情報システムでサポートするためには、ライフサイクル・マネジメントで考えるのではなく、進化型で考えるべきである。
- ④ 進化型で考えるならば変化が少ない基盤情報システムと変化が多い情報系システムと分けて考えるべきである。
- ⑤ 基盤情報システムを進化型で構築するならば CDM で構築すべきであると主張したい。

### 【自己紹介】

大塚修彬(オオツカ ノブヨシ)

出身地:福岡県、九州工業大学金属工学科(現在は物質工学科)卒

日本冶金工業・ナストリアを経てエヌエスエー(自営)設立

現在は MASP に専念、なんでシステムをやるようになったんだとよく聞かれるが、当人もよくわからない。私が信奉している熊楠曼荼羅の縁の論理がそうかなと思っている。

### 【アピールポイント】

特にないというのが一番のアピールポイントかも知れない。大雑把の性格なので、言語化能力が少し遅いあるいは鈍いと自分では感じている。(三歳の時に上海からの引き揚げたことが影響しているかも知れない)

現在は健康のためにと気功をはじめて 8 年目になる。曲と動作が合わないので、今苦労している。